

S D G s 取り組み事例



株式会社サキガケ機工



業種

機械加工事業

最先端の精密工作機械を使い、主に真空成金型の金属加工が主な事業。

ダイス鋼や超質鋼など難削材でプレス金型なども作成します。

また、多品種単品加工や小ロット量産、各種部品加工、
お客様持ち込みの現物の改造や復元など最短納期で対応。



業務内容

マシニングセンタや3次元加工機を使い、各種金型や人口木材試作型の作成



コンビニやカフェメーカーで売られているコーヒーカップの金型や、プラスチックケースの金型など、私達の生活の身近にある物の素材の基になる金型を作成



～SDGsの取り組み事例について～

◆生産過程における環境負担の低減◆



金型の製造過程で液体(水と油)が用いられるが、その液体をマシンの中で可能な限り幾度も再利用しています。また、液体の排出に際しては、垂れ流すことなく、一般の排水と区別されて保管され、買取業者に買い取ってもらっています。



最新の三次元マシニングセンタの導入により、24時間連続加工が可能。大幅な時間短縮が可能になることにより、コスト対策とともに、ハイクオリティな製品作成が実現。



金型加工の際に出てしまう金属片をリサイクル。製錬された金属は、家電や車のパーツを作るのに使われたりと様々な用途に使われていきます。



脱プラの流れとどのように共存していくか・・・

◆プラスチックの問題点◆

海に捨てられている・海洋汚染

一般的にリサイクル率が低い

自然に分解されない



～今後の取り組みについて～

現在行われている社会の動き(プラスの側面)

自然に分解されない点がプラスチックの問題の核であるが、近年微生物を利用するなどして自然に還元できる研究が進みつつある。

更なる研究開発によりプラスチックの品種改良を期待できるかもしれない。

海洋汚染の対策

プラスチックごみを個人、業者が投棄しない仕組みを社会全体で作る。

例えば、

罰則付きのルールを一律に定める(マイナスのsanction)

プラスチックを回収することに対し何らかの恩典を与える(プラスのsanction)

海外の例を挙げるとシンガポールでは実際に罰金刑を与えている。



～リサイクル率の問題～

リサイクル率についての弊害は上述で話したプラスチックを還元する仕組みがまだまだ発展途上な段階にある。

課題点として、コストが高い。よって研究や実験に充てる費用が十分ではない。

では、いかに研究費用を調達するか？

- 1・すでに述べたようにプラスチックを回収する又は投棄することに対し恩典や制裁を用意することがひとつ。
- 2・プラスチックのなかでも環境に優しいものとそうでないものとで値段の差別化を図っていく。

新しく予算を生んだり、値段を高くすることで研究費用にあてる仕組みを設けてプラスチックの品種改良を進めていく。

値段があがることに対して国民の抵抗が強いようであれば過渡的にでも政府が経済的に援助するなどの対応が考えられる。



～まとめ～

脱プラ問題は研究開発がすすみ、プラスチックの改良を進め、プラスチックの利点を生かし、安い価格、自然に優しいものを調達できることが目指すべき未来だと感じた。

プラスチックの品種改良が進むほどにサキガケ機工としても持続可能であるし、国民にとっても、自然環境にとっても、良い社会が生まれる。

この問題は一企業だけの問題ではなく社会全体で取り組まなければ、特定の事業者だけが不利益を被ることになる。

※SDGsは誰一人取り残さないが原則なはず！

～社内見学inサキガケ機工様～

